



第6号の発刊にあたって

少しずつ日も長くなりはじめ春が近づいてくる思いがいたします今日この頃ですが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。常日頃、何かと柿渋・カキタンニン研究会をご支援いただき本当に有り難うございます。

連日のテレビニュースでは、新型コロナウイルスに関するニュースが多くなりあげられていますが、ウイルスの増殖を効果的に抑制するという「柿渋」が何かお役に立てないかと、気をもむ毎日でもあります。柿渋を利用した感染対策グッズや装置が開発できれば、と願っております。会員の皆様のご健康を心から祈っております。

柿渋・カキタンニン研究会 会長 松尾 友明

内容

1 【特集】 柿渋ガイドマップのご紹介	2
1.1 柿渋ガイドマップが完成しました！	2
1.2 掲載の柿渋スポット	4
1.3 柿渋ガイドマップの今後	7
2 活動報告	8
2.1 柿渋研究会主体の活動	8
2.2 けいはんなグリーンイノベーションフォーラム様との協力事業	13
2.3 京都府木津高校の生徒さんの快挙！	14
2.4 クラウドファンディングへの取り組み	14
3 総会のご報告	15
4 お知らせ	16
4.1 第1回 けいはんな天然資源利用促進交流・懇談会のご案内	16
4.2 国際 柿シンポジウムのご案内	18
5 編集後記	19

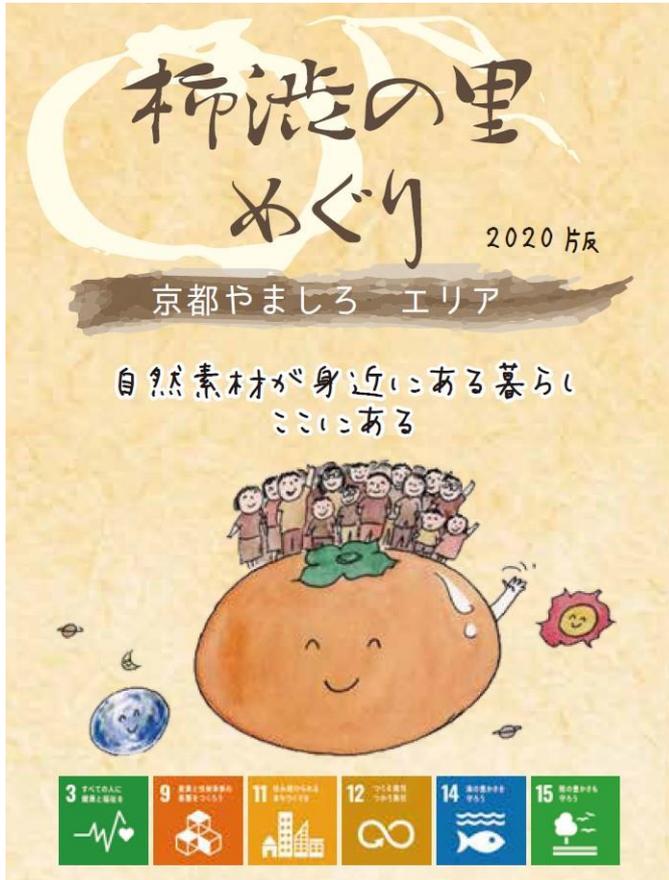
柿渋・カキタンニン研究会では会員同士の活発な知的交流（柿渋・カキタンニンに関連した知識と技術の交換）を促進することを目的として、この SRAKK ニュースを発行しております。第2号以降は会員限定コンテンツとなっております。会員の方は、本研究会ホームページ（<http://kakishibu.tannin.info/>）からお知らせしております I D、パスワードでログインいただき、左メニュー下部に追加表示されます「会員専用エリア」内にてご覧ください。

（事務局からの I D、パスワードご連絡もれ等、ご不明の場合は、お手数ですが、「お問い合わせ」よりご連絡をお願いいたします。）
会員でない方は、この機会に、ぜひ入会をご検討いただけますようお願いいたします。

1 【特集】柿渋ガイドマップのご紹介

1.1 柿渋ガイドマップが完成しました！

京山城地域に着目した柿渋ガイドマップの2020年版を3月中に印刷・配布させていただく予定です。



京都やましるエリアへのアクセス

京	近鉄京都線 (急行約 30 分)	新祝園
都	JR 奈良線 (快速約 40 分)	木津

大阪方面から 吹田→大山崎→宇治西→木津
松原→大内→木津
東大阪 Jct→奈良宝来→木津

名古屋方面から 瀬田東→宇治東→木津川
亀山→大内→相楽郡

柿渋・カキタンニン研究会
<http://kakishibu.tannin.info/>
 Mail kaki@tannin.info

1.2 掲載の柿渋スポット

2020年度版は、この地域に散在する、柿渋の文化遺産や柿渋に関する「コトのモノ」についての情報収集を非常に限られた時間で、調査・訪問・ヒアリングを行いました。そのため、まだ不十分な点が多いかと思いますが、この柿渋に特化した地図ができることによって、この地を「柿渋の里」と設定して、情報発信の拠点にすることができます。

木津川市・精華町エリア

1 株式会社 三桝嘉七商店  

Map D-2 柿渋の製造、販売。
木津川市木津町宮ノ内 9 番地 ☎0774-72-0216

柿渋 House みます    

寝具、健康食品の販売、各種体験。
木津川市木津町宮ノ内 9 番地 ☎0774-39-7428

 みます柿渋農園   

柿渋の原料となる天王柿を栽培。
木津川市木津石塚 6

2 木津川市役所  

Map D-2 市内で製造・販売されている柿渋関連商品を展示。
木津川市木津南垣外 110-9 ☎0774-72-0501

3 手作りせっけんの店ツクツク   

Map D-1 柿渋やお茶などを使ったオリジナルの石鹸を製造販売。石けん作りワークショップも開催。
相楽郡精華町大字山田下川原 1-3 ☎080-5701-7509
営業日：水曜日 10 時～15 時（インターネット販売有）

4 けいはんなグリーンイノベーションフォーラム  

Map D-1 オープン・サイエンスを基盤とした「未来の学び」の場を発信。柿渋の啓発セミナーなども手掛ける。
木津川市木津川台 9 丁目 6 番
けいはんなオープンイノベーションセンター (KICK) 201 号室
Mail : office@kgi-forum.org

5 サントリーワールドリサーチセンター  

Map D-1 ポリフェノールやタンニンを研究。
相楽郡精華町精華台 8 丁目 1-1 ☎0774-66-1110 (代)
※施設見学要問合せ

6

Map
D-1国立国会図書館関西館 

柿渋関連図書を配架。(利用には登録が必要です)
 相楽郡精華町精華台8丁目1-3 ☎0774-66-1110(代)
 開館時間: 9時半~18時(日祝・第3水曜日閉館)



7

Map
D-2京都府立山城郷土資料館 

柿渋の製造に関する道具や書籍などを収蔵。
 2020年7月~12月期間限定展示有り。
 木津川市山城町上狛千両岩 ☎0774-86-5199
 開館時間: 9時~16時半
 (月曜・年末年始休館※月曜が祝日の場合は翌日)



8

Map
D-2パン屋のキッチン sadacoro  

低温長時間発酵製法で小麦本来のうまみを引き出したこだわりのパン屋さん。柿渋せっけんも取り扱う。店内に展示されている柿渋染めの黒谷和紙を使った切り絵や柿渋ペイントの床も必見。
 木津川市城山台13-21-3 ☎0774-26-6903
 営業日: 木金土10時~18時頃



和東・宇治田原エリア

14

Map
C-3株式会社 岩本亀太郎本店 

柿渋の製造元。
 相楽郡和東町大字石寺小字向島9 ☎0774-78-2048



15

Map
A-3有限会社 木創 

環境に配慮した住宅建材販売店。
 宇治田原のお茶農家が作る柿渋も取り扱う。
 綴喜郡宇治田原町費田船戸72-1 ☎0774-88-4246



加茂エリア

9

竹工房 游



Map
D-3

竹林間伐ボランティアや柿渋と間伐材による作品作り。活動に参加したい方は要問合せ。
木津川市加茂町藤城 ☎0774-76-5400 (阿部博臣)



10

NPO 法人 加茂女



Map
D-3

間伐した竹を活用した商品開発などに環境保全・地域資源活用に取り組む。柿渋を使った竹製品づくり体験も実施。(要相談)
木津川市南加茂台 4-15-6 ☎0774-66-1895
営業日：平日 9:00 ~ 17:00
(毎月第 2 火曜日の午前中・年末年始・お盆を除く)



11

ふるさと案内・かも 観光案内所



Map
C-3

地域の観光案内や特産品・柿渋関連商品を販売。
木津川市加茂町駅西 1 丁目 6-3
営業日：土日祝 9 時 ~ 16 時

13

海住山寺



Map
C-3

真言宗智山派の仏教寺院。鎌倉時代に貞慶により中興された国宝の五重塔を柿渋が塗られた柵が囲む。本堂にて柿渋染めのご朱印帳を販売。
木津川市加茂町例幣海住山境外 20 ☎0774-76-2256
拝観時間：9 時 ~ 16 時半



笠置エリア

16

笠置町産業振興会館



Map
C-4

観光案内やカフェスペースがあり、地域の特産品を販売。柿渋を使った竹製品も取り扱う。
相楽郡笠置町大字笠置小字佃 46 番地 ☎0743-95-2880
営業時間：9 時 ~ 17 時 (月曜休業※月曜が祝日の場合は翌日)

17

竹と柿渋の店アトリエアキタ



Map
C-5

竹と柿渋のアトリエ兼ショップ。
相楽郡笠置町有市東綴 40 ☎070-5662-2223
営業時間：不定休 (インターネット販売有)



南山城村エリア

18

Map
C-6

株式会社 トミヤマ



柿渋の製造、販売。
塗料、染料、健康雑貨、日用品、衣料、和紙
など幅広い商品を製造販売。また、各種ワー
クショップも実施。

相楽郡南山城村南大河原阿僧6-5 ☎0743-93-1017
営業時間：9時～17時（土日祝定休）※来店時は要予約

19

Map
B-5

山のテーブル



元保育園をリノベーションしたレストラン・
カフェ&コミュニティスペース。柿渋関連商
品も取り扱う。

相楽郡南山城村童仙房三郷田47旧野殿童仙房保育園
☎080-4980-3811
営業時間：不定休（要問合）

20

Map
C-6

道の駅お茶の京都 みなみやましろ村



「村のダイジェスト」がコンセプトの道の駅。
地域の特産品や柿渋製品を販売。

飲食コーナーでは地元の味覚が味わえる。

相楽郡南山城村北大河原殿田102 ☎0743-93-1392
営業時間：9時～18時（不定休）

※飲食コーナーは営業時間が異なります。

1.3 柿渋ガイドマップの今後

柿渋ガイドマップの強化策：～地図の作成によって、「柿渋の里」の弱みと強みが分かってきました。そこで、研究会としましては、今後、このマップを一層改善すべく、以下の活動を進めていきたいと思っております。

- (1) 若者によるモニタリングツアーによる改良
- (2) 散策モデルルコースの設定とスタンプラリーシステムの構築～ガイド案内や説明文を設ける。
- (3) 神社やお寺、喫茶店、食堂、民宿で柿渋製品を置いてもらう。
- (4) 柿渋に関する体験学習のメニュー作成と各拠点での実施
- (5) 柿渋の常設館の設置： [柿渋の館] や[柿渋ミュージアム] の建設 などを行って地域の活性化に役立てる

ご意見、アイデアなどがありましたら、研究会にメールでお知らせください。

2 活動報告

本研究会の現在の活動状況を報告いたします。

2.1 柿渋研究会主体の活動

講演会『柿渋勉強会』

今まで本研究会で実施しました講演会の多くでは、主に柿渋の新規の用途開発に注目した話題提供を行ってききましたが、改めて、柿渋の歴史的文化的側面にも着目したいと考え、今回は、柿渋の利用の中でも伝統工芸の分野に焦点をあてた勉強をする会を行いました。



■日 時：令和元年7月15日(月) 15時から1時間半程度

■テーマ・講師：

1. 「工芸と柿渋～その魅力と復活の展望」

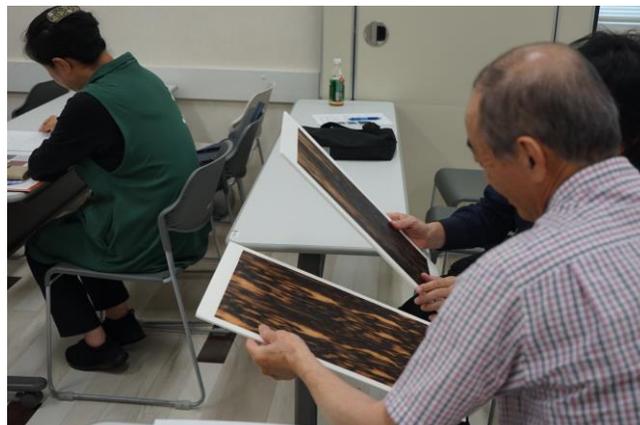
講演者 岩田 均様(京都美術工芸大学非常勤講師、元教授)

2. 「歴史から読みとる、黒柿の価値観」

講演者 松原 義美様 有限会社つるばみ きょうと工房代表

■参加費：無料

■会場：イオンモール高の原 4階 こすもすホール



「地域交響プロジェクト交付金」による活動

令和元年度は、京都府の「地域交響プロジェクト交付金」に応募し、採択されました。

活動に先駆けて、令和元年11月15日に以下の内容のメールを配信しまして、ご協力を依頼しました。

柿渋・カキタンニン研究会はこの度京都府からの補助金とクラウドファンディングによる寄付資金を活用して、京山城地域に柿渋の歴史と文化遺産および柿渋関連産業のモノに注目したガイドマップを作成することを企画しました。このようなマップを作成して広く公表することによって、伝統的な日本人の生活や民俗学的遺産、歴史、またプラスチック汚染の環境問題に関心がある人々を国内外からこの地域に集客できると期待しております。加えて、近年、ヨーロッパを中心に天然の塗料や染料に注目が集まっていることから、今後柿渋が世界的に認知され脚光を浴び、同時にこの京山城地域にも関心が高まるものと思われまます。

そこで、最初に、それぞれの地域で長年に活躍してこられた「柿渋屋」さんを中心に柿渋の文化遺産や柿渋に関する「コトのモノ」についての情報収集を行いました。例えば、柿渋の製造や利用に関する土地（場所）、文献・書籍、文字・文体資料、物・道具・製品資料、人資料、神社・仏閣、倉庫、工場などの建物類、遺跡などの情報を発掘、収集、整理したいと考えております。それを最終的には、実際の地図を見取り図化したものに落とし込みます。普段、柿渋のことをご存じない一般の観光客のような方々がこの山城地域に来られても、どこに行けばどんなものが見られて、どんな体験ができるか、一目でわかるようなものが出来上がればと、考えております。

次に、部分的な情報収集ができました段階で、内容を充実させるために、ワークショップを実施しました。

(2回の公開ワークショップのほか、地域ごとのヒアリング、調査など関係者によるワークショップも8回程度開催)



『柿渋ガイドマップ作成に関するワークショップ』（公開 WS）

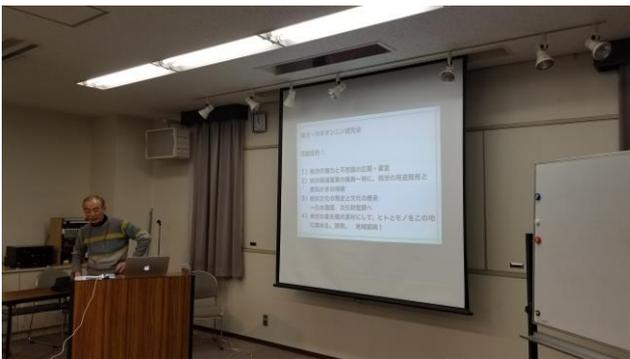
■日 時：令和元年12月22日(日) 10:30 - 12:00

■参加費：無料 ■会場：木津川市加茂文化センター 研修室（和束町）

■テーマ・講師：

1. 参考の話題提供「お茶の DMO の取り組み」 鳥井雅史
2. 説明・報告「柿渋ガイドマップ構想とその推進」
3. QA・アイデア・情報交換

今回は、その構想について会員、地域、関係の皆様、その他ご関心を持っていただける一般市民の方々にご報告するとともに、マップ作成の進捗状況をご説明して、参加者全員に付箋紙を配布してご意見やアドバイス、柿渋関連情報を記入していただき、ホワイトボードに張り出して、情報の共有を行い、意見交換いたしました。



また、合わせてお茶の京都の DMO 鳥井雅史様に現在までの DMO の活動をご説明いただき、柿渋の関連産業の観光化を目指すとすれば、どんな課題や可能性があるか、などの勉強をさせていただきました。参加者は地元の方々が中心で、18名でした。



当日、いただきました貴重なご意見や情報をすぐに「柿渋ガイドマップ」に反映させていただきました。

『柿渋ガイドマップ作成に関するワークショップⅡ』（公開WS）

次には、場所を変えて、さらなる情報収集の強化、より多くの意見を汲み上げるために以下のワークショップを実施しました。

◆日時：令和2年1月18日（土）10時半～12時

◆場所：イオンモール高の原4階コスモスホール ◆参加：無料

◆テーマ：第1部：「Kakishibu を世界標準に！」ビジネスコンペでの優勝への道

木津高校 松田 俊彦 様

第2部：柿渋ガイドマップ作成ワークショップ



第1部では、木津高校のシステム園芸学科の生徒さん達が関西大学ビジネスプランコンペティションで優勝され、また内閣府の「SDGs まちづくりアイデアコンテスト」でも最優秀賞次席に選ばれました柿渋に関するプレゼンについて、指導されました松田先生に解説していただきました。



第2部では、前回に続いて、「柿渋ガイドマップ」のドラフト案を示して、新しい情報やご意見、アドバイスをいただきました。参加者は24名でした。

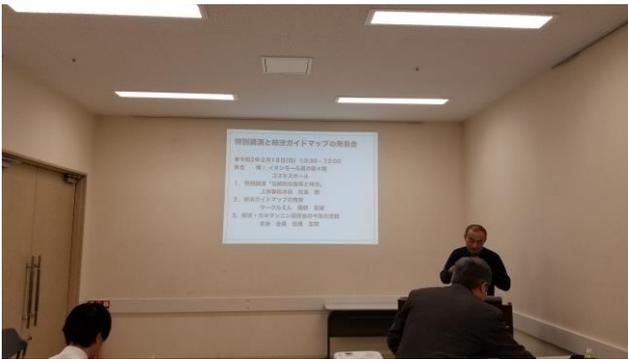
柿渋ガイドマップ発表会

◆日 時：令和2年2月16日（日）10時半～12時

◆場 所：イオンモール高の原4階コスモスホール ◆参加費：無料

◆テーマ：

1. 第1部：「伝統的製茶と柿渋」についての講演 上林春松本店 松島 剛
2. 第2部：「柿渋ガイドマップ」の発表 サークルえん 磯野奈緒



お茶と柿渋の長年にわたる深い関係について、特に、伝統的なお茶の製造に関して、その各種の工程で使われていた、あるいは、使われている、柿渋を使った道具を詳しく解説していただきました。和紙に塗った、柿渋は、香りが移らない、耐久性に優れ、湿気に強い、茶の滑りがよいなどの優れた特性を付与するために重視されたと考えられます。

それまでに収集できました、多数の柿渋に関する情報を整理して、京山城地域の柿渋に関する「コトとモノ」を集めた、他に類のない地図を発表することができました。ひととおり完成しました「柿渋ガイドマップ」を50部コピーして、会場で配布し、ご意見を伺いました。和歌山や神戸からご参加いただき、参加者は26名でした。



本研究会の松尾会長が以下のビジョンに触れて、閉会となりました。

「柿渋屋さんの活動を点から面の観光・産業素材と上げることができます。ここでは、南山城村から木津周辺地域を『柿渋の里』と名付けて、日本の伝統的な生活を体験してもらう観光地として育成していきたい。また、魅力ある天然素材としての柿渋を伝える場、世界に配信する拠点としたいと考えています。」

2.2 けいはんなグリーンイノベーションフォーラム様との協力事業

けいはんなグリーンイノベーションフォーラム（以下、KGIフォーラム）様は、昨年度、「柿渋を未来につなごう！プロジェクト」を実施され、本研究会もその活動に参画しました。（詳細は前号をご覧ください）

その成果物として、2019年3月に、「柿渋情報総合サイト」<https://kakishibu.co/> を制作・公開されました。



柿渋に関する情報をワンストップで閲覧できることを目的に構築された（一部工事中）、スマートフォンにも対応した見やすいサイトになっています。ぜひご覧ください。

2.3 京都府木津高校の生徒さんの快挙！

京都府立木津高等学校のシステム園芸科で農業を学ぶ2年生の近美夕子さん（17）、伊藤一紗さん（17）、高屋友里さん（17）は松田先生の指導のもとソーシャルビジネス研究班を作って、一昨年秋ごろから木津川市の特産品である天然素材「柿渋」の耐久・耐水・防腐・防虫・防臭効果などの多彩な機能性に着目した。そこで、柿渋の活用について検討を始め、市内の製造会社に足を運びプラスチックゴミを減らす研究目的を伝えて柿渋の提供を受けたり、柿渋・カキタンニン研究会の会長からの講義を受けたりして、柿渋を一から学び始めた。

そして、色々と思案を重ねて、結果、柿渋を塗って丈夫にした新聞紙を使ったレジ袋を試作して、その耐久性、消臭効果などを調べた。予想以上の好結果が得られたので、全体をストーリー化して、地域の産業振興や渋柿の生産による耕作放棄地の解消になることも提案して、1つのビジネスプランを作成した。

そのプランは「『Kakishibu』を世界標準に！」としてまとめあげ、プレゼンした結果、「関西大学ビジネスプラン・コンペティションKUBIC2019『学生の力』」では参加した824件の頂点に立った。さらに、内閣府の「SDGsまちづくりアイデアコンテスト」でも最優秀賞次席に選ばれた。このアイデアを古紙回収袋などに活用できないか、木津川市は検討を始めたと聞いています。

～令和2年1月(東京大学)第7回創造力、無限大∞高校生ビジネス・グランプリファイナリスト出場予定～

[過去の受賞歴]

令和元年11月(日本経済大学)第4回高校生ビジネスアイデアコンテスト最優秀賞

令和元年11月(愛知県図書館)SDGsまちづくりアイデアコンテスト最優秀賞次席

このように、高校生など若者が柿渋に関心を持って、新しい用途開発やビジネスプランを提案してくれることは、柿渋関連産業にとって明るい未来を作ってくれるような気がして大変心強いモノです。第二第三の新しいビジネスプランが生まれてくることを祈っております。

2.4 クラウドファンディングへの取り組み

プラスチック製品の使い捨て文化が定着し、日常化した社会で急速に衰退してきた、日本独自の柿渋文化を保存・継承・広報するために、京山城地域にその文化の情報発信の場と産業振興の核として「柿渋の里」を作ることを目指している。柿渋ガイドマップを作って、柿渋の里を設定して国内外から人を呼び寄せたい。本物のジャパンプラウン（柿渋）の良さを多くの人に認知していただくために柿渋の魅力や不思議に関する科学的情報を発信しながら、多様なワークショップのメニューを研究・開発して、実施していきたい。

以上の内容の応援型のクラウドファンディングを実施することを検討しています。

3 総会のご報告

令和元年度(2019年6月1日から2020年5月31日)通常総会が2019年7月15日に開催されました。

令和元年定時総会 議事録

1. 招集年月日 2019年6月27日 電子メール送信、及び議案内容のホームページ掲載
2. 開催場所 京都府木津川市 イオンモール高の原 4階「こすもすホール」
3. 開催日時 2018年7月15日 午後4時40分～5時
4. 会員総数 正会員28名、賛助会員13社
5. 出席者数 正会員20名(委任8名含む)、賛助会員11社(委任5社含む)
6. 議長選任の経過

定刻に至り司会者から開会を宣し、本日の定時総会は会則所定数を満たしたので有効に成立した旨を告げ、議長の選任方法をはかったところ、引き続き司会者の進行となり、議案の審議に入った。

7. 議事の経過の要領及び議案別議決の結果

議案1号 平成30年度年度事業報告、及び決算報告

本議案の事業報告について、当研究会の松尾会長より資料説明の後、事務局より決算を説明し、監査については中村監査役の事前承認済みについて事務局から報告を行ない、これを議場にはかったところ、異議なく可決決定した。

議案2号 令和元年度 事業計画、及び予算

本議案の事業計画について、松尾会長より資料の活動方針を説明の後、予算について説明があり、今年度も京都府地域力助成金を現在手続き申請中であることを述べ、議長がこれを議場にはかったところ、異議なく可決決定した。

議案3号 役員の選任について

本議案の役員の選任について、事前配布資料の説明の後、これを議場にはかったところ、異議なく可決決定した。

以上をもって定時総会の議案全部の審議を終了したので、閉会を宣し、午後5時に散会した。

4 お知らせ

4.1 第1回 けいはんな天然資源利用促進交流・懇談会のご案内

2020年の3月20日（金）に木津川市 加茂町文化センターにてけいはんな天然資源利用促進交流・懇談会が開催されます。

本研究会の会長が「天然資源に関するコメンテーター」として登壇する予定になっています。このイベントは「柿渋の里」を大きく包含する木津川流域の地域・文化産業の振興を目指す地域連携・交流の場であり、本研究会としては、この機会に「柿渋の里」構想に対して、理解、共感、支援をいただけるようになることを期待しています。



2020(令和2)年3月20日(金) 13:30~18:00

会場 木津川市 加茂町文化センター2階「音楽室」ほか

参加無料・用申し込み 定員50名

詳細、参加申し込みについては 以下ページをご覧ください

<http://www.kgi-forum.org/>



開催趣旨 (けいはんなグリーンイノベーションフォーラム 様からの案内資料より)

自然とともに暮らす豊かな社会。これは、けいはんなグリーンイノベーションフォーラム（KGI フォーラム）が描く未来社会のイメージである。KGI フォーラムは、2015年、個人を主体に設立された市民活動団体である。この間、「もう一つの文明」を構想する人々と対話を重ね、「日本の未来」を探求してきた。また、伝統的未來技術としての地域資源を「小さな博物館」と見立てて、それを核としたまちづくりに向けた議論を重ねてきた。

こうして議論を踏まえ、KGI フォーラムは、今、「流域の思想」の下に、行政界を超えた地域連携の下に新たな実践への扉を開こうとしている。

この度、木津川流域に所在する天然資源をモチーフとして、いわゆる「文化産業」の振興に勤しんでおられる方々にお集まりいただき、その思いを語っていただこうと、「けいはんな天然資源利用促進交流・懇談会」を開催することとした。この交流の中から、地域の発展に繋がる新しい取組の芽吹くことを期待している。

プログラム (仮)

■ 記念講演 「流域」から構想(デザイン)する「地域」の未来 (仮題)

鈴木 康久 先生 (京都産業大学 現代社会学部 教授)

■ 特別講演 内閣官房・内閣府「地方創生ワカモノ会合」は語る。

SDGs まちづくりアイデアコンテストから見る「日本の未来」 (仮題)

河口 真理子 先生 (株式会社 大和総研 調査本部 研究主幹)

■ 実践報告・コメント 木津川流域を彩る人々。風土としての流域文化の彩を探求する

◆ 山・川・里「資源循環型」地域づくりプロジェクト関連

①和束町：馬場課長

②南山城村：森本「道の駅」社長

◆ 天然資源「伝統的未來技術」再生プロジェクト関連

①木津川市(旧木津町)：木津高等学校 (ソーシャルビジネス班)

②南山城村：(株)トミヤマ (富山社長) <資料提供>

③精華町：相楽木綿伝承館 (福岡代表)

④木津川市 (旧加茂町)：NPO 加茂女 (曾我代表)

◆ 自然・歴史文化「体験観光」開発プロジェクト関連

①笠置町：笠置寺住職

<コメンテーター (予定) >

①文化資源：文化庁地域文化創生本部

②天然資源：柿渋・カキタンニン研究会

③地域づくり：京都府山城広域振興局・相楽東部未来づくりセンター

<事務局報告>

けいはんなグリーンイノベーションフォーラム (KGI フォーラム) 事務局

■ 交流懇談 (60 分)

■ ポスター展示・資料配布 (終日)

4.2 国際 柿シンポジウムのご案内

2020年の10月11日～15日に奈良国際春日野フォーラム 麓にて国際柿シンポジウムが開催されます。世界の十数ヶ国から150～200名の柿関連の研究をされている方々が参加され、柿に関する様々な最新の研究成果が発表されます。

国際 柿シンポジウム(International Symposium on Persimmon)は、1996年にタイで第1回目の大会が開催されて以来、国際園芸学会の監修のもとで、4年に一度のペースで開催されてきました。2回目以降の開催国は、オーストラリア、韓国、イタリア、中国、スペインです。参加人数は大会ごとにより異なりますが、だいたい100人～300人程度で、2013年に開催されたスペイン大会には世界12か国から約200人の参加がありました。

本研究会としては、サポーターの団体の一つとして柿渋に関する展示をすることで、国内外からの参加者に「柿渋」に興味を持っていただくとともに、「柿渋の里」を見学していただくことを期待しております。現在、柿渋屋さんのみならず、伝統的な柿渋の利用に関わる団体や企業様、あるいは、現在柿渋を使った第2次製品を販売しておられる団体や企業様に出展・参加を幅広くお願いしております。会場に「柿渋コーナー」を作ることができれば、このシンポジウムの20年以上の歴史の中で初のイベントとなります。

趣意書（第7回 国際柿シンポジウム ホームページより）

国際 柿シンポジウムには、世界各国の柿研究者や生産者、苗木業者、流通・加工関係者が参加して、それぞれの研究成果を報告しあって質疑応答を行うとともに、生産技術や繁殖技術、流通・加工技術、成分分析技術に関する最新の情報の紹介や意見交換などを行います。農作物の輸出入が世界的な規模で行われる時代にあつて、世界中のカキ研究者やカキ関連産業の関係者が一堂に会して交流できる絶好の機会です。

このたび、日本国内のカキ研究者有志の尽力によって、第7回国際柿シンポジウムが来る2020年10月11日(日)～15日(木)に奈良県(奈良市)で開催されることになりました。柿は古くから日本で栽培されている伝統的な果樹であり、カキの生産技術や基礎研究、品種育成、柿渋の利用など、これまで我が国が世界をリードして来ました。国際柿シンポジウムを日本で開催することは、日本のカキ産業・研究を世界にアピールする良い機会であるとともに、柿の生産や関連産業の発展にも大いに寄与するものと考えられます。

詳しくは 公式ページをご覧ください <http://www.jshs.jp/modules/sympo2/>

会場へのアクセスは以下「麓」ページをご覧ください

<http://www.i-ra-ka.jp/iraka/access/>



5 編集後記

今後、本研究会の活動をより広域に拡大しようとしますと、当然、活動資金や人材の不足が痛感させられます。本年度から来年度にかけては本研究会が新しい研究会に脱皮せざるをえない状況です、大きな転換期となるかもしれません。現在、スタッフも高齢化が進み、今後世代交代や後継者問題が出てきております。本研究会の目的と活動内容に賛同していただければ、ぜひ多くの若手の方に参入していただきたいと願っております。

柿渋の発展のために研究会が作成する三種の神器

- 1) 科学と知識、産業: けいはんな科学絵本「柿渋とカキタンニン」 ◎完成
- 2) 地域振興: 柿渋の里の柿渋ガイドマップ ◎完成
- 3) 歴史と文化: 柿渋利用図説(図録) <今後>

そして、さらには

全国柿渋サミットの開催 → 柿渋製品コンテストの開催 → 全国柿渋振興協会の設立
→ 大阪万博への出展 → 欧米進出! (展示・販売・広報)

を目指して、活動します。

並行して、科学的な技術による『新生柿渋』と新規用途開発にも参画していきたいと考えています。

何か良いアドバイスや工夫がありましたら、ぜひお知らせください。企画・運営に携わるスタッフも募集しておりますので、参加していただける方はメール等でお知らせください。

また、この「柿渋ニュース」への皆様の投稿をお願い申し上げます。

柿渋・カキタンニン研究会 会長 松尾 友明

SRAKK News - Kakishibu - 柿渋ニュース

2020年2月 Vol.6

<編集・発行> 柿渋・カキタンニン研究会

<研究会事務局> 〒619-0244 京都府相楽郡精華町大字北稻八間小字大路 74

京都府立大学精華キャンパス 生命環境学部野菜花卉園芸学教室内

ホームページ: <http://kakishibu.tannin.info>

メール: kaki@tannin.info

